

ハングル化の進む韓国の場合

鈴木:石井さんのおっしゃったこととまったく逆なことをやったのが韓国ではないかと思います。実は四月になって一週間ばかり、招かれて韓国に行って参りましたが、驚いたことには、ソウルをはじめどこに行きましても99パーセントまでハングルなのです。漢字を探し出すのが難しいくらいです。それからついでに言うと、東京なんかと違って、ローマ字の看板はまったくありません。案内して下さった方に、どうしてハングルがそんなに徹底したのか聞きますと、我々もうすうす感じてはいたことですが、戦後の韓国ナショナリズムによってハングル化を始めた結果、そうなったのだそうです。漢字はずいぶん長い間教えなかったわけです。それで、「30年もハングルばかりやっていると思考法が非常に変わって困るのではないか」と聞きましたら、それがいいのだと言われるのです。この方は日本で生まれて東大を出て、ドイツのチュービンゲン大学へ五年も留学していた人ですから、たいへんなインテレクチュアルです。どうしてかと聞き

ましたら、その人はこういうことをおっしゃるのです。「漢字は目にはぱっとはいるから、感覚的に受け入れることになり、従来論理的にものを構成していく力が非常に弱かったのは、そのためである。ハングルでは全部組み立ててやらなければいけないので、思考方法が論理的になり、その点で非常によくなった。やはりハングルをやっていくべきだ。いまの若い人たちは日本の小説などもハングルで読み、その感想文を見ると驚くべき深い捉え方をしている」というわけです。「あなたの国や中国の古典、あなた方と我々との共同の文化的遺産を読みこなせない人間が出てくるのではありませんか」と言いましたら、「いや、それは翻訳すればいい」というわけで、どうしても平行線になってしまうのです。帰国してからいろいろ考えてみますと、日本も平安朝の女性文学は仮名ですし、ずっと下って会津八一(秋艸道人)の歌も漢字が一つもないですね。そういうのは一体どう違うのだろうか最近考えさせられているのですが.....。

石井:しかし、ものごとを推理したり論理的に考えたりするのは、幼児期に漢字をやったかどうかでずいぶん違ってくると思います。

たとえば、「整」という字は英語の辞書を引きますと、to put things in order' となっています。order に当たるのは「正」、things に当たるのは「束」、put に当たるのは「攴」です。漢字は複雑だと言われますけれども、こういう具合に組み立てられているのです。木を集めて一つにまとめたのが「束」であり、「攴」は手に棒を持っているかたちを表わしています。ですから、手に棒を持って牛に向かえば「牧」になり、世の中を正しくするために権力をふるえば「政」になる、それを子どもにふるえば「教」になるわけです。束をこしらえれば必ずでこぼこができるわけで、そこを棒でたたいてきちんとする。「正」という字も、足の裏を表わす「止」に「一」が合わさったもので、足のとどまるべきところにちゃんと置くことを表わしています。それが「整」なのです。漢字というものはすべてこういう具合に論理的な仕組みを持っているのです。それを理解すると、「整」は単に正しくするという意味ばかりでなく、不整になっているところを人為的に力を加えてそろえる意味があるということまでわかるわけです。そういうことは、やはり単に音声を表わすだけの文字でやった

のでは不可能だと思いますね。

市原:たいへん面白い質疑応答がございまして、もう予定の時刻が過ぎたくらいでございます。きょうは皆さん、どうもありがとうございました。